



©ROPPONGI IMOARAZAKA SHINBUN



イモアラ

# 六本木 芋洗い坂新聞

発行所 水産経済新聞社 〒106-0032 東京都港区六本木6丁目8番19号 電話03-3404-6531(代) FAX 03-3404-0863

2014年  
(平成26年)

1/30 (木)

THURSDAY

Special

## 美術館、アートナイトが 六本木の街を変えてゆく。

六本木アートナイトの役割は「点から面へ」。青木館長が語るアートと街のこれからのこと。

国立新美術館 館長

### 青木保

「美術館そのものは保守的な存在かもしれないが、これからは街のさまざまな活動と連携させていくことが必要です」

美術館に向かう道は、わくわくするおしゃれなストリートであってほしい、すてきな店をそこに引き込んだりしたい。

街を散歩することが好きで、ときにカフェに座って景色を眺めながら、お茶をすることもよくあるという青木館長。

文化人類学者で元・文化庁長官と聞いて、お力タイ人物を想像してしま

うが、それはあっさりい

「森美術館、サントリー美術館と21 21 DESIGN SIGH、そして国立新美

術館。美術館だけでは点

でしかありませんが、線

が繋ぎ、面になったとき

六本木という街がますます魅力的になります。そのための街作りを考えた

目です。特に今年5回

目を迎える「六本木ア

ートナイト」は点から面へ

の重要な役割を果たす貴

重な機会です」

前回、延べ83万人が鑑

賞したというこのイベン

ト。回を重ねる毎に定着

し、意義が高まっている。

10年ちょっと前、一部

の関係者をのぞけば、六

本木がこれほどのアート

の一夜を核として、事前

の1週間くらいかけて盛

り上げるアートナイト

を企画を充実させること

を越え、映画館や劇

場、ライブハウスなども

アートナイトに限った

ことではない。館長は

あり、近くにはコンサ

ートホールとして世界有数

のサントリーホールもあ

り、上野に次ぐ美術館集

中ゾーンと言っている。

そんな街だからこそ

「アートナイト」のアイ

ディアも受け入れられや

マンもあり、日本で生

まれた魅力ある現代文化

ザリッカルトン東京



あおき・たもつ/文化人類学者。2012年1月から現職。1938年、東京生まれ。大阪大学で博士号取得。アジア、ヨーロッパなどで文化人類学・文化政策などに関するフィールドワークに従事。元・文化庁長官。著書に「文化力」の時代—21世紀のアジアと日本(岩波書店)など。

など世界を代表するホテルもある。周辺に立地する大使館、領事館など、在外公館は40以上です。同時に弱点的な個所も認められている。たとえば、ニューヨークのタイムズスクエアのような「中心」がない。六本木クロッシング(交差点)がそうなるにはどうすればいいの

## アートとスポーツはつながっている!

HIBINO TSUBUYAKI

第1回

### ヒビノツブヤキ

2008年の北京オリンピックの前年だったか、中国では子供の頃から英才教育でスポーツ選手を育てていく際に、その人のDNAを調べて、瞬間的に優れているとか、持久力があるとかを参考にするという話が話題

になっていった。人間の能力には先天的な部分もあることばわかるけれど、そんな細かい部分まで解明できるものなのかと驚いた。そんな頃に、とある所から連絡があり、「日

比野さんがどんな職業に就いているかをDNA鑑定の結果を教えてください」と、定させてください」との依頼があった。興味本位で引き受けた。数日後に診断が出た。「日比野さんが一番適している職業はスポーツ選手です」と、素直にうれしかった。自分もスポーツは大好きで、1968年のメキシコオリンピックでサッカー日本代表が銅メダルを獲

て以来、サッカーをやっていた。高校時代に美大を目指すことを決めて、その時期はサッカー部を辞めて、再び大学に入ってから続けた。高校サッカーリーグ、ヨーロッパのリーグ、そしてワールドカップを見るにつれ、いつまでもたっても、いくつになっても、わくわくどきどきさせてくれるのがスポーツである。DNAの話には続きがあった。私たちが人間は、おゆうぎ、はやくていのが美術です」と言われた。「エー、どういふこと! 腑に落ちない!」

美術に向き不向きな基準は何なのと聞きたい!と

言葉が発する前から、私たちが人間は、おゆうぎ、はやくていのが美術です」と言われた。二つの表現は同じようなどころからうまれてき

日比野克彦



スクールに登壇した「チーム日比野」の面々。



School #01

# 「チーム日比野」 公開スクールで テーマ『動け、カラダ!』の 裏側を語る!



アーティスティックディレクター  
日比野克彦

(敬称略)

六本木アートナイトは、自らのようにつくられるのか。第5回となる今年の開催テーマが「動け、カラダ!」と発表された1月10日の夜、国立新美術館の講堂にはアーティストの講義にはアーティストの講義にはアーティストの講義にはアーティストの講義には...

- 21\_21 DESIGN SIGHT 磯村昌司
- サントリー美術館 藤川孝子
- 国立新美術館 南雄介
- 東京文化発信プロジェクト室 森司
- 六本木商店街振興組合 角張敏郎
- 東京ミッドタウン 井上ルミ子
- 森美術館 高橋信也
- 六本木ヒルズ 佐藤麻紀子
- 六本木ヒルズ(進行) 武村俊

「動け、カラダ!」というテーマは、六本木アートナイトの歴史の中で重要な役割を担ってきた。このイベントの基本的なコンセプトは、アーティストと観客が対等に交流し、互いに学び合うことにある。...

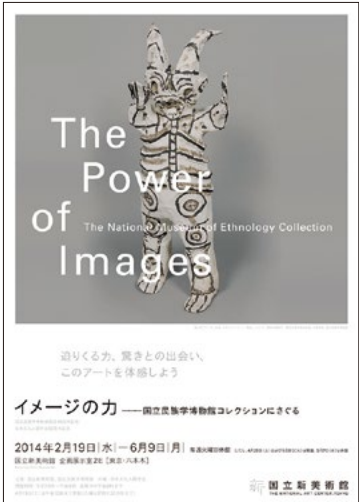
「動け、カラダ!」というテーマは、六本木アートナイトの歴史の中で重要な役割を担ってきた。このイベントの基本的なコンセプトは、アーティストと観客が対等に交流し、互いに学び合うことにある。...



21\_21 DESIGN SIGHT  
「コメ展」



サントリー美術館  
「のぞいてびっくり江戸絵画」



国立新美術館  
「イメージの力」



森美術館  
「アンディ・ウォーホル展」

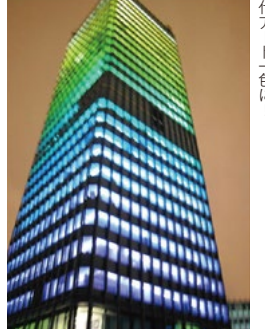


Paris/Toronto/Amsterdam

第1回

海外アートナイト見聞録

アートナイトでお国柄もわかる!!



パリの「ユニ・フランシユ」開催中は街全体が現代アート一色に!



パリはエンターテインメント性の強い作品が多く、演出の規模も大きい。



トロントでは、企業のビルや公共の場を上手に利用したサイトスペシフィックな作品が多かった。

こんにちは。六本木アートナイト実行委員の佐藤麻紀子です。このコラムでは、私が海外で体験した夜に開催されるアートフェスティバル、アートナイトの様子を3回に渡ってお届けします。今や世界数十都市で開催されているアートナイトですが、その始まりとわが国に伝わったのが、2002年にパリで生まれた「ユニ・フランシユ」。

この「白夜」を意味する一夜限りのアートの祭典が成功を収め、世界中へ広がっていききました。

今年の六本木アートナイトは4月に開催されますが、欧米のユニ・フランシユは通常10月上旬に開催されるもの。日が暮れるのが早くなる、秋のはじめに行われます。夜の間に街にアートが浮かび上がり、翌朝には魔法がとけたように日常が戻ります。

また、トロントのアートナイトは北米を代表する金融ビジネス街が舞台。企業から潤沢な資金が集められ、綿密なスケジュールで、昨年訪れたアーティストの作品を展示する。一方、昨年訪れたアーティストは、その対極にあるようなアートナイト。自立性があり、おしゃべり好きのアーティストの夜な夜なディスカッションを繰り返す。真面目なアーティストが大好き。パリのような派手さはありませんが、人々が楽しそうに語り合っている様子が見えます。

こうして見ると、アートナイトが単にアートを楽しむお祭りではなく、街の魅力を育てていくプログラムだということが分かってもらえます。次回も各国のアートナイトの様子を詳しくご紹介していきますので、どうぞお楽しみに!

(聞き手・内田有佳)

さとう・まきこ/玉川大学で現代美術を専攻、イギリスにも留学。現在は森ビル タウンマネジメント事業部で六本木ヒルズの各種イベントを企画。「六本木アートナイト」には初年度から携わる。



トロント市庁舎のホールで行われていた、柱に映像を映し出すアートプログラム。



アットホームなアムステルダムのアートナイト。これはディスカッションの様子。



植物をテーマにしたインスタレーション。考えるきっかけをつくるようなアートが多かったのも印象的でした。

六本木アート掲示板

- 森美術館** 『アンディ・ウォーホル展: 永遠の15分』 日本で過去最大規模となる芸術家、アンディ・ウォーホルの回顧展。初期から晩年までを約700点の作品と資料で迎える。日本未公開の作品も展示。2月1日～5月6日。○港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階 ☎03-5777-8600(ハローダイヤル) 10時～22時(火曜～17時、ただし2月11日～22時) 会期中無休
- 森アーツセンターギャラリー** 『ラファエル前派展 英国ヴィクトリア朝絵画の夢』 19世紀英国のアカデミズムに反発した「ラファエル前派」。その運動と発展をテート美術館の収蔵作品72点を通して紹介する。開催中～4月6日。○港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー52階 ☎03-5777-8600(ハローダイヤル) 10時～20時(1月2月の火曜は～17時) 会期中無休
- 六本木ヒルズ A/Dギャラリー** 六本木ヒルズ アート&デザインストア内にあるギャラリースペース。アンディ・ウォーホル展にあわせて、Sunday B.Morning版の版画展を開催する。○港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ ウェストワーク3F ☎03-6406-6875 12時～20時 会期中無休
- 国立新美術館** 『第17回文化庁メディア芸術祭』 今年度は80カ国以上から4千点以上の作品が集まり、過去最多の応募者数に。大賞作カー
- ルステン・ニコライによるメディアインスタレーション『ert mgn』をはじめとする受賞作を発表。2月5日～2月16日。『イメージの力 一国立民族学博物館コレクションにさぐる』国立民族学博物館の膨大なコレクションから、仮面や神像、美術品などあらゆる「造形物」を選出。イメージの創造とその享受の様を探る。2月19日～6月9日。○港区六本木7-22-2 ☎03-5777-8600 10時～18時(金曜～20時) 火曜休
- サントリー美術館** 『IMARI/伊万里 ヨーロッパの宮殿を飾った日本磁器』 日本初の磁器として欧州にも渡った伊万里焼。重要文化財「色絵花鳥文八角大壺」を含む、約190作品を展示。開催中～3月16日。○港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウンガーデンサイド ☎03-3479-8600 10時～18時(金・土曜、2月10日～20時) 火曜休
- 21\_21 DESIGN SIGHT** 『日本のデザインミュージアム実現にむけて展』 2003年、三宅一生が新聞に寄稿した「造ろうデザインミュージアム」を契機に設立された当館。これまでに23展示を振り返り、その必要性を考察する。開催中～2月9日。○港区赤坂東9-7-6 東京ミッドタウン内 ☎03-3475-2121 11時～20時 火曜休
- 東京ミッドタウン デザインハブ** 『JAGDAやさしいハンカチ展 Part 3 被災地からのことばのハンカチ展』 東北支援のため
- にスタートしたプロジェクトの第3弾。岩手・宮城・福島の復興商店街の人々から集めた言葉をハンカチにし、全国へ届ける。開催中～2月23日。○港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー5F ☎03-5770-7509 (JAGDA) 11時～19時 会期中無休
- TOTOギャラリー・間** 『内藤廣 アタマの現場』 建築家・内藤廣の思考の過程を辿る展覧会。初期代表作から進行中のプロジェクトまでを、内藤の言葉をヒントに読み解いていく。開催中～3月22日。○港区南青山1-24-3 TOTO乃木坂ビル3F ☎03-3402-1010 11時～18時(金曜～19時) 日曜・祝日休
- ワコウ・ワークス・オブ・アート** ウォルフガング・ティルマンス『Affinity』 ドイツ人作家ウォルフガング・ティルマンスの新作展。世界中を旅しながら撮影をした最新プロジェクト「Neue Welt」を中心に構成。近年取り組む、印画紙に直接光や感光乳剤で像を描く「Silver」シリーズの新作も発表。開催中～3月15日。○港区六本木6-6-9 ピラミデビル3F ☎03-6447-1820 11時～19時 日曜・祝日休
- オオタファインアーツ** リナ・パネルジー『私は何でできていて、あなたはどうかやって私の名前を知るの?』 インドをルーツに持つ、米国人アーティスト、リナ・パネルジーの日本初個展。あらゆる文化圏からオブジェクトを選び、組み合わせた色彩豊かな立体やインスタレーションを発表。開催中～1月31日。○港区六本木6-6-9 ピラミデビル3F ☎03-6447-1123 11時～19時 日曜・祝日休
- ロンドンギャラリー六本木** 日本、中国、韓国など東洋の古美術を専門としたギャラリー。仏教美術を中心に、屏風や掛け軸、陶磁器、工芸品などを常設展示。○港区六本木6-6-9 ピラミデビル2F ☎03-3405-0168 11時～18時 日曜・祝日休
- ZEN FOTO GALLERY** 西村多美子『しきしま』 1969～72年に北海道、東北、北陸、関東、関西、中国地方を旅し、撮影をした写真家・西村多美子。幻のファースト写真集『しきしま』よりプリントを展示。2月5日～3月1日。○港区六本木6-6-9 ピラミデビル2F ☎080-4652-7058 12時～19時 日曜・祝日休
- hiromiyoshii roppongi** Chim↑Pom+ レスリー・キー『エレクトリカルパレードで満足したことは一度もない』展 現代アート集団 Chim↑Pom と写真家、レスリー・キーによる、エリイを被写体にした展覧会を開催。2月15日～3月15日。○港区六本木5-9-20 ☎03-5772-5233 13時～19時 日曜・祝日休
- タカ・イシイギャラリー** フォトグラフィー/フィルム 二川幸夫『フランク・ロイド・ライト』 2013年3月に逝去した建築写真家・二川幸夫の写真展。50数年余りにわたり撮影し続けてきたフランク・ロイド・ライトの建築写真約20点を発表する。2月15日～3月15日。○港区六本木5-17-1 AXISビル2F ☎03-5575-5004 11時～19時 日曜・祝日休
- 児嶋画廊** 児嶋善三郎、三木富雄など日本の近代美術作家のほかに、藍染や志村ふくみ、アイスの着物など工芸も取り扱う。常設展示のみ。○港区六本木7-17-20 明泉ビル201 ☎03-3401-3011 11時～19時 日曜・祝日休
- Shonandai MY Gallery** 年齢、ジャンルを問わず、現代アートの展覧会を企画する画廊。開催中～2月3日までは、天野幹夫展、金澤恵美子展を開催。○港区六本木7-6-5 六本木栄ビル3F ☎03-3403-0103 12時～19時(最終日～17時) 会期中無休
- ギャラリーモモ プロジェクト** 平俊介『裏平成都市論』 画家・平俊介による初個展。建造物が立ち並ぶ都市の風景に、空想のイメージが重なるアクリル画10点を発表。2月8日～3月8日。○港区六本木6-2-6 サンビル第3 2F ☎03-3405-4339 12時～19時 日曜・祝日休
- ギャラリー ル・ベイン/ MITATE** 小山剛・野口悦士 二人展『盆と器』 若き木匠家・小山剛と陶芸家・野口悦士による2人展。小山は生地仕上げの盆や器。野口は種子島で採れる土を使った無釉の器を発表。2月7日～2月20日。○港区西麻布3-16-28 ☎03-3479-3842 11時～19時 月曜休
- 古美術 長野** アークヒルズフロントタワー内にある、厳選された古美術を取り扱う老舗ギャラリー。○港区赤坂2-23-1 アークヒルズフロントタワー1F ☎03-3583-4379 11時～19時 日曜・祝日休
- SuperDeluxe** クロスカルチャーなイベントを開催するオルタナティブスペース。2月5日は文化庁メディア芸術祭アート部門大賞を受賞したカールステン・ニコライがオーディオビジュアルパフォーマンスを開催。○港区西麻布3-1-25 B1F ☎03-5412-0515 時間はイベントにより異なる
- ギャラリー・アートアンリミテッド** 柴田敏雄『Pints Unlimited 2014 -Triangles』 自然と人工物の織りなすランドスケープを切り取る、写真家・柴田敏雄の展覧会。三角にまつわるプリントを集め、特集展示する。2月10日～3月8日。○港区南青山1-26-4 六本木ダイヤビル3F ☎03-6805-5280 13時～19時 日曜・祝日休
- Gallery Yanai** 東洋古陶磁を中心とした、古美術・近現代美術のギャラリー。現在は常設展としてコレクションを紹介。○港区麻布十番1-5-1 ☎03-5414-7233 11時～19時(日曜は予約制で13時～18時) 不定休



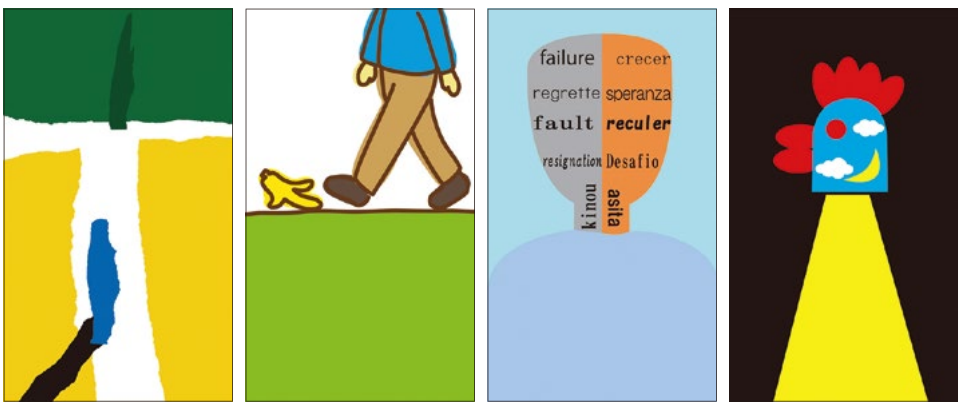
Topics

街とアートをつなぐ  
フラッグコンテスト、  
今年の優秀作品は？

アートナイトと同じ年 1月10日、ANAイン  
に始まり、今年で6年目 ターコンチネンタルホテ  
を迎える「フラッグコン ル東京で行われた表彰式  
テスト」をご存じだろ うには、審査員を務めた長  
か？これは六本木商店街 友啓典氏、葛西薫氏、廣  
がアート&デザインの 村正彰氏と六本木ゆかり  
まちづくりプロジェクト のデザイナーと、8名の  
の一環として行う、商店 受賞者が一堂に。実物の  
街の街灯に掲げられる フラッグも初めてお披露  
旗のデザインコンテス 目された。講評では、審  
ト。今年は「未来をテーマ 査をした長友氏が「年々  
に全国から多数の応募が 賞を取るのが難しいコン  
あり、厳選な審査のもと テストになっている。こ  
で、8点の入賞作品が、実 こからデザインで世界を  
際に商店街に掲出される 目指してほしい」とコメ  
1388の作品が決まった。 ントすると、葛西氏も「自  
分が応募する立場なら、 困ってしまうくらい大き  
なテーマにも関わらず、 デザイン的にも伸びやか  
さのある気持ちのいい作  
品がそろった」と受賞作  
品を評価した。  
フラッグは3月下旬か  
ら5月上旬まで、六本木  
交差点を中心とする商店  
街に掲出される予定。但  
しアートナイト開催当日  
とその数日前はアートナ  
イト告知フラッグに差し  
替えられるので、注意を。  
(大池明日香)



審査員の長友啓典さんから  
グランプリの三橋翔さんに  
賞状が手渡された。



優秀作品賞(廣村賞) 「行く末」 上山拓次 (愛知県/名古屋造形大学大学院2年)  
優秀作品賞(葛西賞) 「一瞬先は…!」 三浦怜子 (広島県/総合学園ヒューマンアカデミー広島校)  
優秀作品賞(長友賞) 「考えは毎日変化する」 山下倭平 (熊本県/崇城大学専門学校)  
グランプリ 「Ichibandori」 三橋 翔 (千葉県/東京デザイナー学院)



東京ミッドタウン賞 「きになる」 小野浩一 (大阪府/株式会社プリントエース)  
六本木ヒルズ賞 「100人の友達」 服部敏正 (静岡県/服部デザイン)  
理事長賞 「未来は六本木」 西岡夏生 (香川県/穴吹デザインカレッジ1年)  
港区長賞 「2020年オリンピックへの旅」 榎本英人 (長崎県/Focuson)

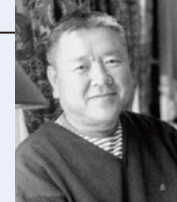
HIROMURA Masaaki 廣村正彰  
1954年愛知県生まれ。77年田中一光デザイン室入社。88年廣  
村デザイン事務所設立。主な仕事に、日産自動車デザインセン  
ターサイン計画、横須賀美術館VI・サイン計画、9hナインア  
ワズ京都寺町AD・サイン計画、西武池袋本店リニューアル  
計画・ロフト有楽町総合AD、西武ギャラリーにて「ジュング  
リン」展開催、すみだ水族館VI・サイン計画などがある。毎日デ  
ザイン賞、KU/KAN賞、グッドデザイン金賞など受賞。



KASAI Kaoru 葛西 薫  
1949年札幌生まれ。(株)サン・アド、サントリーウーロン茶、ユ  
ナイテッドアローズなどの長期にわたる広告制作のほか、近作  
に、SUNTORY、サントリー美術館、六本木商店街振興組合  
の新CI、とらや東京ミッドタウン店、とらや工場のアートディ  
レクション、映画「歩いて歩いても」(是枝裕和監督)などが  
ある。東京ADCグランプリ、毎日デザイン賞、講談社出版文化  
賞ブックデザイン賞など受賞。



NAGATOMO Keisuke 長友啓典  
1939年大阪生まれ。61年桑沢デザイン研究所卒業。日本デ  
ザインセンター入社。69年黒田征太郎とK2設立。エディトリ  
アル、各種広告、企業CI、及びイベント会場構成のアートディ  
レクションを手がけるほか、多数の小説に挿絵、エッセイ連載な  
ど、現在に至る。著書に「そろそろいいかな」「ともかく静かに」  
「ガラスの底に」「べっぴんの鯛」「犬からひとこと」「成功する名  
刺デザイン」他。



審査委員



金曜日の夕方6時、地下の工場最新の「水産経済新聞」が刷り始められた。印刷機が回り  
出すと、営業からデザイン、製版チームまで、スタッフ総出で刷り上がり待ち構える。  
発行人◎六本木アートナイト実行委員会  
編 集◎芋洗い坂新聞編集局  
総括=日比野克彦  
企画=武村俊/田中美知子/西谷枝里子  
企画協力=角張敏郎  
編集=吉田直子  
AD=内田雅之(VOLTAGE)  
取材=鈴木芳雄/大池明日香/内田有佳  
撮影=鈴木陽介/藤田慎一郎  
印 刷◎水産経済新聞社

2013年に第1号が  
発行された『芋洗い坂新  
聞』。日比野克彦さんが講  
師を務める女子美術大学  
の生徒たちが編集人とな  
り、六本木商店街で働く  
人々の取材やアートナイ  
トのリポートを行った。  
第1号から印刷を担当す  
るのが、芋洗い坂にある  
水産経済新聞社の古敷谷  
信房さん。「やっぱり一番  
の思い出はみんなで刷り  
立ての号外を配ったア  
ートナイト当日ですよ」と  
豪快に笑いながら、昨年  
の思い出を語ってくれた。  
「うちの娘も女子美の出身  
でね、年齢は違っても彼  
女たちには不思議な縁と  
いうか親近感がありました  
。入稿日はここで最終  
的な作業をしていて、熱  
心な姿にこちらも刺激を  
受けたくらいです」。  
古敷谷さんが手がける  
新聞は水産専門紙。魚の  
相場から海外の水産資源  
についてなど、水産業に  
特化した情報を扱ってい  
る。そんな古敷谷さんは  
「芋洗い坂新聞」を通して  
布となって、生徒さんた  
を分かち合っている姿を  
見ている。紙媒体の有効性を  
改めて感じました。そし  
て、自分の中にも「六本  
木発」の何かを発信した  
いという気持ちが強くな  
って生えたいです」  
もちろん今年も、「芋洗  
い坂新聞」は古敷谷さん  
とタッグを組んでいる。  
「今からアートナイトが楽  
しみです。一夜の祭りが、  
今年ほどただの人をつ  
なぐのかなかあって。新聞  
もがんばるよ(笑)」  
(吉田直子)



こしきや・のぶふさ/本業の傍ら、歌謡曲の作詞家という顔  
も持つ。雑誌『ミュージックマガジン』では、野沢あぐむ名義  
で演歌と歌謡曲のコラムを30年続ける。六本木の行きつけ  
は「アマンダの裏の居酒屋「いろは」」。

今月の「六本木人」  
水産経済新聞社 専務取締役  
古敷谷信房さん  
アートナイトで実感した六本木のブランド力

**六本木アートナイトの舞台裏を覗く! スクール参加者大募集**

第2回 2014(平成26)年2月20日[木] 14:00~15:30 テーマ:「コンテンツの街への組み込みかた」  
会場◎国立新美術館 講堂 東京都港区六本木7-22-2 国立新美術館3階/参加料◎無料/定員◎50名(予定)  
参加応募◎2014(平成26)年1月20日~2月10日 ※スクールの詳細・応募方法は公式ウェブサイトまたはフライヤーをご覧ください。 <http://www.roppongiartnight.com>

校長 日比野克彦